

芦屋市立美術博物館は、1991年に芦屋市制施行50周年記念事業として開館いたしました。美術部門と歴史部門を併せた複合施設として、芦屋ゆかりの作家の作品を中心に内外の名品をご覧いただけます。また、芦屋の自然や歴史を実際に目で確かめ体験する学習の場として、皆様に親しまれる身近な文化施設となることを目指しています。

イベント情報

ART MARKET あしやつくるば

春と秋、当館のお庭で手作りマーケットやワークショップのお店が集まります。“つくる”ことから生まれる喜びや発見を共有する2日間です。



アートスタディプログラム

まなびはくルーム

美術家や研究者、学芸員と一緒に、美術や歴史の面白さ、楽しさ、難しさなどを発見していく講座やワークショップなどを開催します。
※詳細は当館HPでご案内します。



講座まなびはく「美術館におけるグラフィックデザインの力」(2024年度開催)

小出檜重アトリエ

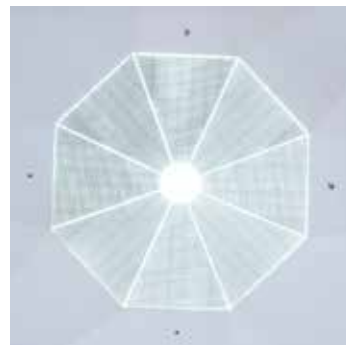
芦屋ゆかりの洋画家・小出檜重(1887-1931)のアトリエを復元し、愛用の画材やモチーフなどの遺品、資料を展示しています。美術博物館開館中は無料でご覧いただけます。



喫茶

Café de Repos カフェ・ド・ルポ

美術博物館のお庭に隣接する喫茶店。特別展に合わせ期間限定のデザートメニューもご用意しております。10:00-17:00まで。



芦屋市立美術博物館
Ashiya City Museum of Art & History

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25
TEL : 0797-38-5432 FAX : 0797-38-5434
HP : ashiya-museum.jp
X : @ashiyabihaku
Instagram : ashiyacitymuseum

各展覧会のスケジュールやイベントについては、当館HP、X、Instagramなどをご覧ください。



HP



X



Instagram

Ashiya City Museum of Art & History



芦屋市立美術博物館



展覧会のご案内

Exhibitions

Schedule

2025.4 ————— 2026.3

ご利用案内

開館時間 | 10:00-17:00(入館は16:30まで)
休館日 | 月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)、
年末年始、展示替え期間中

展覧会によって料金が異なります。

※20名以上が団体料金となります。
※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちのかたとその介護のかたは各当日料金の半額になります。
ご来館の際は、当館HPをご覧ください。

駐車場使用料(20台)
30分100円(8:00-20:00) / 60分100円(20:00-8:00)
※当館利用者は1時間無料

施設使用料

区分	10:00-12:00	13:00-16:30	10:00-16:30
講義室	2,850円	4,370円	7,230円
体験学習室	4,170円	6,820円	11,000円

交通のご案内



徒歩 ▶ 阪神芦屋駅から南東へ約15分

バス ▶ 各のりばから阪急バスに乗り、「緑町(美術博物館前)」停留所下車、徒歩約3分

【のりば】 阪神芦屋駅から：①南向きのりば 系統1「新浜町」行き
JR芦屋駅から：北側⑤のりば 系統1「新浜町」行き、
または南口のりば 系統8「芦屋浜営業所前」行き
阪急芦屋川駅から：①のりば 系統1「新浜町」行き

Exhibitions Calendar 2025-2026

- 隙あらば猫 町田尚子絵本原画展
- 具体美術協会と芦屋、その後
- 生誕120年 山崎隆夫の仕事－絵画と広告デザイン(仮称)
- 浮世絵展(仮称)
- 第43回 芦屋市造形教育展
- 第68回 芦屋市展

※その他の期間は休館日となります。
※イベント及び展示の内容等は都合により変更になる
場合があります、あらかじめご了承ください。

2025	日	月	火	水	木	金	土
3							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
4					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

	日	月	火	水	木	金	土
5						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

	日	月	火	水	木	金	土
6	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

	日	月	火	水	木	金	土
7			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

	日	月	火	水	木	金	土
8							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
9		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

	日	月	火	水	木	金	土
10					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

	日	月	火	水	木	金	土
11							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

	日	月	火	水	木	金	土
12							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

2026	日	月	火	水	木	金	土
1						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

	日	月	火	水	木	金	土
2	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

	日	月	火	水	木	金	土
3	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

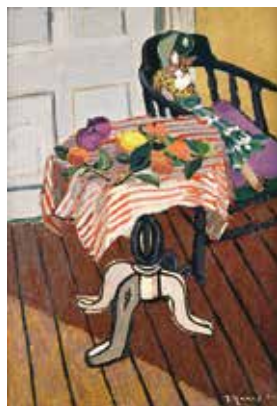


『ねこはるすばん』原画
ほるぷ出版 2020年

3/15(土)－6/15(日)

隙あらば猫 町田尚子絵本原画展

画家・絵本作家の町田尚子の座右の銘は「隙あらば猫」。童話や怪談絵本など様々な物語の中で猫を主人公として、時に脇役として登場させています。本展では、デビュー作から最新作までの絵本原画や装画約250点を制作資料とあわせて紹介、当館を題材に描きおろした作品も展示します。



山崎隆夫《卓上果実》
1935年 油彩、布 当館蔵

9/20(土)－11/16(日)

生誕120年 山崎隆夫の仕事
－絵画と広告デザイン(仮称)

山崎隆夫(1905-1991)は信濃橋洋画研究所や小出楨重、林重義に学び、国画会展を主な舞台に活躍した洋画家です。画業の傍ら、三和銀行に勤め広報を担当し、モダンな感性によって数々の広告を手掛けます。1954年には壽屋(現・サントリーホールディングス)佐治敬三の招きで同社宣伝部長に就任。開高健や柳原良平らを率いて壽屋の華々しい広告スタイルの基礎を築きました。本展は、絵画と企業広告の二分野で活躍した稀有な存在である山崎の仕事の全貌を展覧し、その功績を再検証する初の試みです。



第42回 芦屋市造形教育展の様子(2024年度)

2/14(土)－2/22(日)

第43回 芦屋市造形教育展

芦屋市内の就学前施設、小学校、中学校の子どもの作品を全館で展示します(歴史資料展示室除く)。主催：芦屋市教育委員会、芦屋市造形教育研究会



第67回 芦屋市展講評会の様子(2023年度)

3/10(火)－3/29(日)

第68回 芦屋市展

「何人も随意に応募することが出来ます」という自由さのもと、国籍・居住区・年齢を問わずなだでも応募できる特色ある公募展として1948年に第1回展が開催されて以来、本展は68回目を迎えます。応募作品のうち入選・入賞作品を当館で一室に展示します。会期中、審査員による講評会を開催します。

7/5(土)－8/31(日)

具体美術協会と芦屋、その後

本展では、1954年に芦屋で結成された「具体美術協会」(具体)が1972年に解散するまでの18年間の活動の中から、1970年の日本万国博覧会(大阪万博)の参加に向けて準備を進めていた60年代後半からの「具体」の動向を紹介します。また、1972年と1974年に滴翠美術館等で開催された「芦屋川国際ビエンナーレ」や、1973年から1975年にルナ・ホール等で開催された「ルナ・フェスティバル」を紹介し、芦屋の美術の時間を振り返ります。



歌川国芳
《本朝景色美人図会 伊勢二見浦景》
片岡家蔵

12/6(土)－2026/2/8(日)

浮世絵展(仮称)

江戸時代の美術を代表とする浮世絵には、華やかな美人の姿が数多く描かれていました。この美人画の背景として日本各地の名所や景勝地が描かれ、人々はこの浮世絵から様々な情報を得ていました。本展では、大正時代に芦屋に居住されていた片岡家のご当主が国内外で集められた深斎英泉、歌川国芳などの浮世絵を中心に、ご紹介します。



歴史資料展示室 常設展

芦屋市のプロフィール、地理的特徴、現在の住宅都市となった背景、古代の芦屋について、数多くの資料を通じて紹介しています。昔のくらしの道具や土器のハンズオン展示もあります。企画展スペースでは、特別展や時事的話題に関する小企画展を年に数回行います。(会期は各展覧会に準じます)



日本万国博覧会「具体美術まつり」フィナーレ 1970年